

## 第1回 人権施策推進会議議事録

開催日時 令和8年6月19日(金) 9時から11時20分まで

開催場所 横須賀市役所 本庁舎3階 302会議室

出席者

【委員】池田澄子、檜福宏征、小林英俊、多田幸子、早坂公幸  
菱沼富士子、吉中季子（敬称略、50音順）

【欠席者】なし

【傍聴者】なし

【事務局】市長室 倉林室長

人権・ダイバーシティ推進課 杉山課長、岩崎係長、左近、桐ヶ谷

---

委員 7名中 7名が出席

### 1 開会

- ・市長室長挨拶
- ・事務局職員紹介

### 2 委員紹介および委員長を選任について

- ・委員の自己紹介の後に委員の中から吉中委員を委員長に選任した。
- ・委員長から職務代理者として早坂委員を指名し承認された。

### 3 諮問

- ・市長室長から委員長に諮問書が手交された。

### 4 説明

- ・人権施策推進会議について事務局より説明を行った。

### 5 報告

- ・人権施策推進会議の意見に対する市の対応状況について、資料に基づき事務局より説明を行った。

<意見交換>

小林委員

- ・令和5年度は子どもの人権課題、令和6年度は避難所の人権ということであったが、令和7年度の子どもの人権課題の報告はいつとなるのか。来年、再来年になるということか。

事務局

- ・そのとおり、まずは来年の第1回人権施策推進会議で報告させていただく予定である。

吉中委員長

- ・日常生活支援員の派遣に関して、委託先を増やしたということだが、実際の制度の利用実績がわかれば教えてほしい。

事務局

- ・現時点では詳細な数字を把握していないため、担当課に確認のうえ別途報告させていただく。

【会議内、7 その他にて事務局から説明】

- 令和6年度までは制度の利用が無かったが、令和7年度に1名（7日間）の利用があった。「引き続き周知に努めていきたい。」との担当課からの意見であった。

早坂委員

- ・防災収納庫に備えているコミュニケーションボードは、多言語に対応したものとなっているのか。

事務局

- ・こちらも確認のうえ別途報告させていただく。

【会議内、5 報告の最後にて事務局から説明】

- 「身体の部位」や「どのくらい痛むか」、「はい、いいえ」などイラストを指さしで伝えてもらうようなボードとなっている。英語での併記もして外国籍の方にも伝わるような内容となっている。

早坂委員

- ・避難してこられた外国籍の方々とコミュニケーションが取れないケースが他都市でも多く見られている。そのような時に、多言語対応はもちろん、わかりやすいイラストや、やさしい日本語などの様々な手法でコミュニケーションを図る工夫が必要だと感じている。他都市の事例も踏まえ、さらに進化させていただければと思う。

- ・トイレカーは非常に有効だと思う。他都市と協定を結び、互いに融通し合える施策を進めていただきたい。そして、市民にそのような情報を発信し続けることが大切で、市のイベント等にトイレカーを展示して、「災害時にも活用するもの」ということを伝え、認知度を高めていただきたい。  
災害時には住民に安心感を持ってもらうことが大事なので、ぜひ情報の発信をお願いしたい。

#### 事務局

- ・コミュニケーションボードについては、パソコンや非常用電源、Wi-Fi も用意しているので、デジタル端末を使った多様な手法についても検討していきたい。
- ・トイレカーは、横須賀市で購入した1台が間もなく納車される予定である。全国の自治体でネットワークを組み、いざ災害が起きた際には各自治体からトイレカーが助けに来る仕組みとなっている。横須賀市の1台だけではなく、全国の100数十台のネットワークで対応できる体制となっている。
- ・情報発信については、平時からの啓発としての活用として、地域の防災訓練や、のりものフェスタのようなイベントで実際に展示して、周知を図っていきたいと考えている。

#### 早坂委員

- ・平時の啓発が有事の安心感につながるので、ぜひ進めていただきたい。
- ・外国人の方への周知についても、市役所の窓口などにボードを置くだけでも、「避難所に行けばこうやって会話ができる」と安心してもらえると思う。
- ・日常的に目に触れるようにしておくことが重要である。

#### 吉中委員長

- ・コミュニケーションボードを倉庫に眠らせておくのは非常にもったいない。
- ・普段から市役所の受付や、他にも情報発信の場で活用ができると、市民にコミュニケーションボードを知ってもらうことにつながる。ぜひ、有効活用を検討していただきたい。

#### 事務局

- ・防災訓練では倉庫の中身を見ていただき、参加者に「こういうものがある」といった確認をしていただいている。
- ・もっと広い周知方法を考える必要があるし、マニュアルに写真を載せるなど、工夫をしていきたいと思う。

#### 池田委員

- ・要援護者の避難支援訓練について、令和7年度は実施回数が1回に減っている。
- ・有事に備えて、より多くの場所で訓練を行うことが大事ではないかと思う。
- ・いざという時に集まってもうまいかないので、実施回数が増えるような検討をお願いしたい。

#### 事務局

- ・町内会・自治会や民生委員児童委員、消防団の方々からご意見を聞くと、個別訓練の実施は調整を含め非常に難しいと聞いている。市職員も支援班として応援に入るが、主体となる地域の皆様の負担も考慮しつつ、どう進めていくか検討しているところである。
- ・現在、個別避難計画の作成を進めていて、誰が、どのように、誰と一緒に逃げるかを決めるといった取り組みを進めている。なかなか大変なことではあるが、行政としてしっかりと考えていきたいと思う。

#### 池田委員

- ・高齢化も進んでいて、今まで助ける側だった人たちも、自分のことで精一杯という状況が増えているものと思う。

#### 菱沼委員

- ・要援護者名簿が行政から届くが、量が増大化していて、民生委員の目が行き届かない状況となっている。
- ・障害のある方で自身の状況を隠そうとする方や、一人暮らしの高齢者の方も増えている状況で、声掛けや避難のあり方、個別避難計画をどう進めていくかといったことが非常に悩ましい。地域でもしっかりと考えていきたいと思っている。

#### 事務局

- ・横須賀市においても、本日のご意見を参考に検討を進めてまいりたい。

## 6 議題

### (1) 横須賀市人権施策推進指針について

- ・人権施策推進指針に係る市の取組状況について、資料に基づき事務局より説明を行った。

### (2) 意見交換

#### 小林委員

- ・予算の概要の拡充の金額については、拡充部分だけが記されているのか。

#### 事務局

- ・事業にかかる全体額が記されているものである。

#### 多田委員

- ・男女共同参画に関する記述内容について、昨今のダイバーシティの進展を考えると、「男は仕事、女は家庭」という固定的な意識は、戦後生まれの世代であっても、すでに淘汰されつつあると感じている。
- ・この表現をそのまま残すのは、かえって現状の認識を妨げるのではないか。

- ・より直接的に「性別を理由とした役割分担」という表現に切り替えたほうがよいのではないか。
- ・今の時代、どれほどの人がこの古い意識を持っているのか気になる部分である。

#### 事務局

- ・令和7年度に実施した市民アンケートでは、「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する人が数年前と比較して微増しているという実態がある。
- ・意識が根強く残っていること、または、何らかの社会情勢の影響で揺り戻しが起きている可能性があるのではないかと考えている。
- ・この表現が市役所の意見として捉えられないよう、「市民アンケートの結果」であることを明記するなどの工夫をしつつ、啓発の必要性を強調していきたい。

#### 多田委員

- ・アンケート結果は理解できるが、一步間違えれば市からのメッセージと誤解される恐れがあるので、文脈には十分な注意を払っていただければと思う。

#### 吉中委員長

- ・実際にこの言葉はよくないといった理解は進んできているが、「男は仕事、女は家庭」といった意識を持っている人は依然として多い。
- ・日本のジェンダーギャップ指数は低いままであるし、アンケートの結果はその通りであると思う。
- ・性別的役割分担も根強くあって、女性は非正規労働が多いといった現状からも示されていると思う。

#### 檜福委員

- ・人権侵害の深刻な事例についても触れたい。
- ・老老介護の末の痛ましい事件などが色々な地域でも起きている。
- ・男性の介護者は、地域との交流がなく、相談することを「恥」と感じて抱え込んでしまう傾向がある。
- ・障害のある子供を持つ親が、子供に逆恨みされてしまい、命を奪われてしまうようなケースもある。
- ・これらは周囲に相談できない「孤立」が最大の要因である。
- ・行政として、こうした悩みを「こぼせる場所」があることを、もっと強力に発信し、相談へのハードルを下げる施策を講じるべきであると考えている。

#### 菱沼委員

- ・私の住む地区では、町内会で気軽におしゃべりのできる「いきいきサロン」を積極的に作っている。女性の参加者が多く、男性だけで参加する人は少ない。
- ・男性は地域とのつながりを持つことが苦手な方も多いように感じている。
- ・町内会館を自由に使ってよいとして、グループ活動が活発になるよう促して、男性だけでお話をするグループも作られてきている。

- ・障害のある方や独り暮らしの方など、手助けをしたいのだけれどもできないといった風潮になっている。
- ・かつては誰がどこで何をしているかなどを把握することができていたが、現在は個人情報保護の観点から情報の把握が難しくなっている。一步踏み込んでつながりをつくり、支援ができるようになるとういと思う。

吉中委員長

- ・行政の相談窓口に行ってもらうことはハードルが高いし、まずは地域でつながれることは良いことと思う。

池田委員

- ・男性が地域とのつながりを持つことが苦手な理由として、会社勤めで地域とのつながりが少なかったことや簡単に弱音を出せないといった考え方があるのかもしれない。

菱沼委員

- ・男性の会の会話を聞いていたら、昔話から会話が広がって今の話をしているようであった。他地区から移住してきた人は話についていけないということもあるようである。
- ・地域とのつながりをどう作っていくかといったことは大きな課題であると思う。

小林委員

- ・生成 AI の相談について、人への相談が苦手な方も相談ができるので、よい取り組みであると感じている。
- ・現在、自身は健康でスポーツのできる身ではあるが、スポーツができなくなるような状態になったときに、引きこもったりするかもしれないし、地域とのかかわりがどうなるかといったことを考えさせられた。

多田委員

- ・スマホで発信している「1分でわかる横須賀」のようなツールも非常に有効であると感じている。
- ・団体や地域といった大きな枠組みだけでなく、市民が直接情報を得て、アクションを起こせるようなデジタルの力も最大限に活用すべきであると思う。

池田委員

- ・男性の育休取得が 40.5%という数値を聞いたが、まだまだ取りにくい世の中であることを憂慮している。

吉中委員長

- ・企業による個別周知が義務化されたこともあってか、ここ 2～3 年で数値自体は上がってきている。
- ・しかしながら、取得は増えていても、日数が短かったりなど依然として問題はあつるものと理解している。

#### 事務局

- ・横須賀市役所においても8割ほどが育休を取得しているが、日数が短いといった状況となっている。
- ・人権・ダイバーシティ推進課の事業としてセミナーを行うなどにより、育休の取り方などを理解してもらえるよう取り組んでいきたいと思っている。

#### 吉中委員長

- ・中小企業ではまだまだ取得しにくいといった声も聞いている。
- ・そのようなところへの啓発も進んでいけばよいと思う。
- ・相談体制について、パンフレットを配ることはよいことであるが、相談のしやすさを向上していくことが必要であると思う。

#### 菱沼委員

- ・行政の相談窓口として、数年前に各行政センターに地域生活相談窓口を設置されたことで、身近な困りごとを繋ぎやすくなったと感じている。
- ・何でも相談できる場所としての認知度をさらに高める努力を続けていただきたいと思う。

#### 池田委員

- ・人権意識調査について、学校教育が必要であることの見解が多いことがわかった。
- ・実際に子供達がどのような人権教育を受けているのかといったことを知りたいと思った。
- ・子供から大人まで人権を知識として感じ取る。多くの皆さんに人権意識が広まってほしいと感じた。

#### 多田委員

- ・学校教育の現場も非常に重要である。教室内は社会の縮図のようなもので、外国籍の子供が増えたり、その他にも多様な課題が混在している。
- ・いじめや不登校など、人権が脅かされる場面も多い。それぞれが人権を侵害したり、主張したりするからトラブルが起きる。子供のときに必要なトラブルとして経験してほしいとも思う。
- ・横須賀市教育委員会では、75歳くらいのベテランの教員もサポートに入り、学習の遅れや教室にいられない子供達への対応を強化されている。
- ・昔に比べると、教員への手厚いサポートが行われていて、援助に入っている教員の数が増えている状況にある。
- ・それでも多忙な教員だけで課題を解決することは困難である。

#### 吉中委員長

- ・大学生を見ても、周囲を気にして自由な発言ができない空気となっている。
- ・小・中・高の学校での生活が、つながっているのだと実感した。

檉福委員

- ・子供の話しであるが、学校の中でも悪いクラスと言われていたクラスが、学年が変わり先生が変わった途端に一番いいクラスに変わった。
- ・家庭の力を深めるような施策や、教員の資質向上となるような施策が行われると、子供の意識は変わっていくものと思う。

菱沼委員

- ・地域の小学校では、学校長が主体となって、地域住民に「サポーター」となっていて、授業や放課後の活動を支えてもらうといった取り組みを開始された。
- ・顔見知りになることが有事の際の安心感に直結するものと思う。

檉福委員

- ・そのような地域の力が活用できるとよいと思う。

### **(3) 横須賀市人権施策推進指針の改定について**

- ・横須賀市人権施策推進指針の改定について、資料に基づき事務局より説明を行った。

<意見交換>

小林委員

- ・指針改定案の構成について、3章で「教育」と「啓発」を分離した意図は理解できるが、啓発を独立した項目とする必要性について伺いたい。
- ・「インターネットによる人権侵害」という表現について、インターネットそのものが悪であるかのような印象を与える表現であるものと感じる。利用する側の問題であることを示す「インターネット上での」等の表現を検討すべきではないか。
- ・3つの人権課題をその他から柱立てするとのことであるが、「その他の人権課題」に据え置かれている課題がなぜその他のままなのかといったことを説明できるよう準備しておいたほうがよいものと考えている。

事務局

- ・教育と啓発を分けたのは、行政として啓発活動を基盤に据え、より広範な層へアプローチする姿勢を明確にするためである。
- ・インターネットの表現については、ご意見を踏まえ、より適切な文言を検討させていただきたい。
- ・人権課題については、社会情勢や市の取組みが変わってきているという意味で課題として位置付けたいと考えている。重要度を比べているものではないことはご理解いただきたい。

吉中委員長

- ・「その他の人権課題」に分類することについて、当事者の方にとっては数が少ないからこそ重要な問題であることと思う。
- ・表現を「多様な人権課題」、「見えづらい人権課題」など、漏れなく目配りしていることが伝わる名称へ変更したほうがよいのではないかな。

小林委員

- ・「その他・人権施策に係る重要な課題」のような修飾語で表現する手法もあると思う。

事務局

- ・ぜひ検討させていただきたい。

吉中委員長

- ・「障害」の表記について、ひらがなで「障がい」とする事例も増えており、当事者目線で考えたときに変更したほうがよいのではないかと感じている。

事務局

- ・現在、市役所の既存部署の名称や計画名などを漢字表記としているため、このような記述としている。
- ・担当部署の考え方など市全体の方針を確認した上で調整させていただきたい。

吉中委員長

- ・人権課題の順番について、番号の若いもののほうが重要課題のように見えてしまう可能性がある。
- ・今の順番を軸とするのであれば、「人」を課題としたものを前にするなど、順番の考え方を整えておく必要もあると思う。
- ・「人権課題」、「人権侵害」、「人権問題」と記し方が異なっているが、何か理由があるものなのか疑問に感じた。

小林委員

- ・人権課題の順番について、法務省でも人権課題が示されているが、その順番となっているのか。

事務局

- ・法務省で記された順番に近い内容にはなっているが異なる部分もある。
- ・各自治体の指針も順番は様々となっているようである。

小林委員

- ・重要性で順番を決めることは難しいと思う。
- ・よくある手法として、50音順もあるが、何かに沿って順番を決めているというように示せるとよいと思う。

事務局

- ・「性的マイノリティ」、「インターネット上の人権課題」については、前回の指針改定で人権課題と位置付けたためこの順番となっている。
- ・今後は記載の順番についても検討していきたいと思う。

吉中委員長

- ・人権課題の分類が多くあればあるほど、その狭間で声を発せられない方や苦しんでいる方がいらっしやると思う。
- ・横須賀市は「誰もひとりにさせないまち」として取り組んでいるし、これらの課題だけに捉われず、全ての人権課題がカバーされているといったことが示せるような文章も書いておいてほしいと思う。

事務局

- ・他の自治体では「全ての人に人権があること」や「課題としていることに当てはまらずに苦しんでいる方々もいること」を示す内容を記載している指針もある。
- ・様々な表現の仕方があるかと思うので、そのような考え方も盛り込めるよう検討していきたい。

吉中委員長

- ・次回会議では、人権施策について広く知見のある神奈川人権センターの方をお呼びする案が示されている。
- ・その他に、もう1名専門家を招聘することができるようであるが、どの分野の専門家にお話を聞いてみたいかなど、委員の皆さまのイメージやご希望をお聞かせいただきたい。

多田委員

- ・横須賀市内の外国籍の子供達を支援する「日本語支援ステーション」の現場の声を聞く機会があれば、指針の具体性が増すものと考ええる。

池田委員

- ・弁護士会での具体的な人権救済の仕組みや、実務、事例等について、お話を聞いてみたい。

事務局

- ・会議後に各委員あてに意見照会を行うので、ぜひご意見いただければと思う。

## 7 その他

## 8 閉会